

No.012

練馬稲門会 練稲 Press

第15回ニューイヤーコンサート ～コロナ禍を乗り越え2年ぶりに～

練馬稲門会新春恒例の早稲田大学交響楽団によるニューイヤーコンサートが2年ぶりに開催されます。新型コロナ感染拡大により前年は中止を余儀なくされましたが、状況に好転の兆しが見えたため、今回敢えて実施に踏み切る決断をしたものです。第15回の節目となる今回、ワセオケは一段と気力が充実し満を持しての演奏が期待されます。

1. 日時 2022年1月15日(土)
14:00開演(開場13:30)
2. 会場 練馬文化センター大ホール
3. 演奏 曾我大介指揮、早稲田大学交響楽団
ソリスト 高橋 維(ソプラノ)
4. 曲目 ブラームス/「交響曲第2番作品73」、モーツァルト/「踊れ、喜べ、幸いなる魂よ」、ヨハン・シュトラウス二世/ワルツ「春の声」「ジプシー男爵の序曲」「狩のポルカ」ほか



シュテファン・ドール氏(ベルリンフィル首席ホルン奏者)の飛び入り演奏(2016.2「第10回コンサート」)撮影:岡田吉郎

今回の演奏会には地元練馬区民の皆さんのほか、都内の各稲門会はじめワセオケファンの方々も多数来場される予定です。

なお、チケット(指定席A:3500円、指定席B:2500円)の売れ行きは順調で残席はわずかとなっています。

お問い合わせ、お申し込みは練馬稲門会コンサート事務局: ☎ 070-3526-4179、FAX.03-4243-2759、Eメール nycneritou@waseda-info.com までお願いいたします。

「七福神巡り」について

新しい年の福を求めて例年実施している七福神巡りについては、新型コロナウイルスの変異株「オミクロン型」の出現など新たなリスク要因もあり、実施のあり方について慎重に検討を進めています。

現時点では、従来と同じ形での催行は困難と思われるので、趣向を変えた方法で開催することを模索中です。

方針決定次第、「歴史ウオーキング部」から別途皆様にお知らせがある予定です。

しばらくお待ちくださるようお願いいたします。

2022「新春の集い」のご案内

日時: 令和4年2月12日(土) 16:30開場/17:00開会
場所: ココネリホール(練馬駅横)
会費: 3,000円

第1部: 落語/古今亭志ん雀
(平成14年文学部卒、令和3年真打昇進)

第2部: 懇親会
【アトラクション】
松浪千紫演奏(平成17年人間科学部卒)

(注)なお、コロナ禍再来により会場の飲食が不可となった場合は行事内容と会費を変更することとなりますのでご了承ください。

フォークソング愛好会

コロナ禍のため本年3月以来活動を休止していたフォークソング愛好会（以下、会と略す）も感染者数の減少の兆候が出始めたことを見定めて、11月2日より漸く定例会活動を再開した。この日は会員にとってはあたかも待ちわびた啓蟄の 때가到来したがごとき思いであっただろう。

会の定例会は毎月第一火曜日に開催される。コロナ禍の下での開催の可否は、東京都モニタリング会議が毎週公表する感染状況と医療提供体制のレベルが定例会予定日の18日前に3以下であるかどうかを基準に判断されている。

9ヶ月にも及ぶ活動の休止は人と会える嬉しさ、ともに歌える喜び、練習後に飲み語り合える楽しさをことごとく奪っていた。この長いブランクは会員が歌を忘れたカナリアとなり、その活動参加意欲を低下させ、今後の会の運



営に支障を来すのではとの心配が我々にはあった。しかし、11月の定例会には休止前の参加状況とほとんど変わらない会員の方々が参加をしてくれた。練習が始まり、歌える喜びを伝えてくれるがごとく響き渡る歌声の輝きに、我々の心配は単なる杞憂でしかないことが明らかになった。

私どもとしては、ともに歌う喜びを通じて、この会の存在が心豊かに充実した有意義な人生後半を過ごすよすがとなることを願いながら会の運営をしてゆきたいと念じている。
(部長・穂山 幹夫)

麻雀部会

練馬稲門会の各サークルの中でも、旅行部会・ゴルフ部会と並び歴史を重ねる部会です。

定例会は奇数月の月末に開催。コロナ騒動までに121回を重ねています。10年前から、定例に加えて、年末納めの忘年大会や4月に温泉に一泊しての温泉大会、更に年間に2回、近隣稲門会（杉並・豊島・武蔵野）との4地区大会また慶應・三田会との早慶戦が加わり、年間を通して12回ほどの頻度になっています。定例大会は多い時には総勢32名（女性会員含む）が参集しトップ3を目指します。

全員その日の『ツキと勘』を頼りに黙々と配牌された手牌を上がりに向け手づくりしてゆきます。ある者は、無口のまま相手3人の切り牌をジッと窺い、またある者は自信ありげに大声で「リーチ」宣言。和気あいあいの中にも真剣にゲームを進めます。そしてゲーム終了後の懇親会、「先



輩・後輩を忘れての乾杯！」これがまた大会の楽しみです。

しかし近年は女性及び若い会員の参加者が少なく、時代の移り変わりを感じています。

この度、コロナ自粛の2年間を経て11月から定例大会122回を再開致しました。

麻雀は、ボケ防止に効果があると科学的な検証もされているようです。学生時代に取った杵柄。皆様の参加をお待ちしています。
(部長・喜々津 和夫)

テニス部会(硬式)

令和3年がスタートし、新型コロナウイルス感染拡大が続き、4月には「緊急事態宣言」の発令があつて、テニス部会のメイン活動「定例会」は自粛を続けてきました。

このたび宣言の解除が行われ、校友会、練馬稲門会からの活動緩和措置を踏まえて、テニス部会では免疫力増進に向けて10月から「定例会」を再開することとしました。

半年ぶりの定例会（10月13日）は生憎雨模様でしたが、待ちに待った定例会テニスへの思いが強く、曇りとなった予想を頼りに「やろう！」の一声とともに実施の決断が下されました。応じた13名の参加の下、時折注ぐ霧雨も何のその4時間の熱戦がコート3面で繰り広げられ、久々の部会メンバーとのテニスを堪能しました。

今後、環境が許す限り、参加者一同で準備運動を行い、コート内での密回避、消毒液スプレー常備、コートチェン

ジは左回りにするなど感染対策を施し、アフターテニスのお楽しみを我慢しながら月2回の定例会活動を続けることにしています。

テニス部会は昨年創部20周年を迎えました。「2020東京五輪」に倣い1年延ばした「記念大会」を11月24日に開催します。

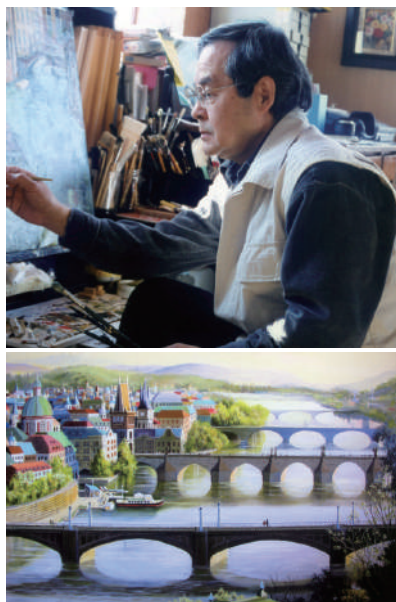
豪華賞品(?)を用意して、レディーズ会員、グランドマスターズ会員(80歳以上)を対象にテニスでは珍しいハンディキャップ制を導入するなど運営に工夫を凝らして盛り上げたいと思っています。
(部長・武田 幸雄)



Essay 私のワセダ青春記

西大久保の新キャンパス初期生として

坂本 成



プラハの朝 F-12号

そんな家に来て早稲田以外は考えず大学受験にのぞみ好きな絵画と数学が同時に生かせるかなと建築学科を志望して何とか叶えることができました。

昭和39年入学の我々は西大久保の新しい理工学部のカンパスで4年間すべてを過ごした最初の期生です。

当時は学生運動が最盛期で、毎朝キャンパスに行くとき全教室の入り口に机や椅子を積み上げたバリケードがあり、その上に顔にタオルを巻きヘルメットを被った闘士(?)がコウノトリが巣を守るように一人ずつ陣取って居ました。

5年遅れで大学までたどり着いた私は、「産学共同の理工学部は体制側の手先」などと言われても、その行動や理屈が、幼稚なお坊ちゃんの自己陶醉とは思えず、さつさとバリケードを取り除き教室を解放して回りました。

大学での4年間は人生の句読点、踊り場として、自分の考えを一度整理する時間だったと回想しています。

昭和43年にゼネコンT社に入社し、平成10年無事に定年退職を迎えました。社内への挨拶も終え会社を退出した帰路、在職中に叶わなかった油絵に再挑戦をと新宿の画材店で材料一式を揃えて、今に至るまで自己流の制作をつづけております。

今、練馬稲門会に入会し、新たな出会いを楽しませていただき感謝しております。今後ともよろしくお願いたします。
(昭和43年理工)

早稲田が教えてくれたこと

久保庭 啓一郎



10月3日、喜多能楽堂で舞囃子「田村」を舞う筆者

「ワセダ」を意識したのは中学2年の昭和35年秋、全国を興奮の渦に巻き込んだ早慶6連戦。その4年後、第一政経学部新聞学科1年生となりました。

田舎者には、クラブ活動の先輩同輩、先生方、おでん屋のおばちゃん。人との出会いが新鮮で面白く、学ぶことの多い4年半でした。家族ぐるみの生涯の交際に至った出会いも多く、その珠玉は大西鐵之祐監督ご夫妻とのご縁です。

先生は「早稲田ラグビー復権」のため東芝から大学に呼び戻されて総長室長・校友課長・教授のお立場でした。私は麻布の「大西ハウス」に数人でお邪魔して「闘争の倫理」「ナショナルリーダーの育て方」など大西理論を聴き、議論をさせていただく関係になっていました。

アヤ夫人は新潟の「菊水酒造」のご長女で、先生を「おやつさん」と呼びました。突然現れる我々にあつという間に料理を作り、サツと会話の輪に戻る。誰かに嬉しいことがあったと聞くと、パツとお赤飯が出てくる臨機応変力の凄い人。ですがアヤ夫人の本当の凄さを知ったのは、10数年も後のことでした。

87年秋、私は長野の支局長に赴任。その後にかつての対抗戦優勝のスター中村康司氏も某社支店長でやってきました。ラグビーが盛んな土地柄です。大西待望論が盛り上がり、私が菅平に派遣され先

生から快諾を頂きました。「大西監督来たる！」地元稲門会の準備も進みました。

が、その後先生は持病の心臓で倒れ闘病生活に入られました。小生の電話での問い合わせに夫人は「おやつさんは行きますよ」とあっさり確約され、1ヶ月後、予定通り病院を出て、遠い長野にやってくる約束が果たされました。熱狂的なファンや高校生にも囲まれての講演、校友との懇親会、テレビ出演。3日間の日程を元気に消化されて無事ご帰京の昼です。

長野駅のホームで列車の出発を待つ間のこと。アヤ夫人が柱の陰に「久保ちゃん、ちよつと」と私をお呼びになり、数枚のメモを見せてくれました。火葬場の略図もありました。呆然とする私に夫人はこう話してくれました。

「今回の講演に出ることは東京のラグビーの連中は全員反対でした。日比野さんもそうでした。命を懸けていくほどの約束か、と。けれど私は、おやつさんに便々と死を待つような日常を送らせたくない。心臓がパンクして即死することも覚悟してやってきました」

「あなたには迷惑でしょうが、こちらで火葬にする。参列者も決めて名簿を預けてきました。お骨を持ち帰って葬儀は東京で。一切を決めてやってきました」

この時、私の頬はジーンと冷たくなり、死の間まで大西鐵之祐を大西鐵之祐たらしめんとする夫人の、あるいはご夫妻の決意をただただ聞きました。

先生はそれから6年を元気に生きられました。後に先生のラグビー人生はテレビドラマとなり、アヤ夫人役は私と同期の吉永小百合。雰囲気は良く出ていました。
(昭和43年政経)

思い返せば50年前

北島 秀樹



私の入学した1973年(昭和48年)は、早稲田大学が東京六大学野球春季にリーグ優勝した年です。優勝は久しぶりでした。就任10年目となった、石井藤吉郎総監督の時です。「関白」(秀吉を文字つて)という愛称で、暖か味と包容力を感じさせる人柄で、球界の内外からも愛された人かと。ふとしたご縁で関白に神宮球場でお会いできて感激でした。理工学部電気工学科に入学したのですが、オリエンテーションでは「間違った年」とよく言われました。入学定員の見込み違いでしょうか。

入学してすぐに、柔道部(同好会)に入り、部の面々と神宮へ駆け込み、都の西北や紺碧の空を熱唱し新宿の繁華街へなだれ込み、盛大な酒盛り。よおしく飲みました。ふと部屋に戻ってみると、神宮球場の金看板(どこに掛かっていたかは失念)を抱えて眠り込んでいたかビックリ!『お前、どこからそんなもの拾ってきたんか?』と。酒の力では仕方がない。しばらく処理に困りました。もう時効です。

私もちよつと。自力で家にも帰れず、先輩に自宅まで送ってもらったこと。一度も起きず、翌日夕方まで寝ていました。親父は何も言わず笑っていました。我が人生でつぶれたのはこれ一回きりです。

そんな私でも、高い授業料を何とか親父に頼らず、自分で払おうとアルバイトを探しました。一番真つ当な家庭教師では到底授業料は払えません。家庭教師とは別にデパートのマネキンをやることに。一番割の良いのが婚礼家具屋さん。歩合制。婚礼3点セット100万円売れば、3万円ですね。当時はよかったです。3年ほどやりましたか……。稼ぎは結局自分の懐に。でも人生勉強? できたのは大きかったです。言葉づかいから身だしなみ、それに知らない世界。ここで働いている人は、ほとんど本業が夜のバンドマン。昼はデパート、夜はバンドで稼ぐ。そんな方々に歌手の噂や業界のシキタリを聞かせてもらいました。そんなこんなでお客さんとも上手にお話しできました。この世は全て情報と人間関係かな? と。こんな学生時代でしたが、1977年(昭和52年)に電電公社(現NTT)に入社しました。転勤が2年おき、全国に異動させられます。第一志望は北海道だったのですが、お前は酒が強いから四国の高知だと、言われたのも、配属前の学園生活で酒豪だと認定されていたからか? 高知はイゴッソウ(異骨相)。しかし、酒なら負けれない! ほとんど毎日が酒の嵐。箸拳と呼ばれるお座敷遊びも堪能できました。何とか、カラダは持ちました。学生時代の酒に感謝です。東京に戻って、次は関西。次はまた東京と往復3回で関西の人に。生粋の東京人なのに。結局単身20年超、関西30年超。NTTには早稲田が多く、先輩諸氏には本当にお世話になりました。

改めて早稲田大学に感謝です。2年前に、東京に戻りました。

練馬稲門会の皆さま、こんな北島秀樹をよろしくお願ひいたします。

(昭和52年理工)

同じ釜の飯

春日 由希子



応援部チアリーダーズに所属し、それはもう濃密な4年間を過ごした。

応援部では神宮球場での六大学野球を始め、レガッタ、バスケット、バレエ、アメフト、サッカー、水泳、ボクシングなどの早慶戦や箱根駅伝などの各種応援に馳せ参じた。またコンテストに出場したり新歓ドリル、ステージ等々に出演した。さらには部費を確保するため、企業の応援バイトや高校への応援指導、入試バイトや稲門会などでのアトラクションバイトもした。練馬稲門会さまにもその節はお世話になりました。往年のチアリーダーズ主務として厚く御礼申し上げます。

そんな中、私の一番の思い出は応援活動やステージ活動そのものよりも合宿や納会である。

毎年リーダー、バンド、チアの3パート合同にて春は7泊、夏は10泊の合宿を行う。食事のときは3パート、学年をミックスした「班」ごとに座るのだが、「高砂席」にいる主将が箸を置いた途端、みんなが目配せをしあつて会話をやめ、箸を置き、その日の当番が挨拶のため前に進み出る、というルールがあつた。主将の方も自分のペースで食事するのではなく、みんなの食事や会話の進み具合を見ながらゆつくり食事をして箸を置くので、お互いに空気を読みあう日本的な感じが、今思うとどこかおもしろかつた。

また、お酌の仕方は応援部の納会で教わつた。たつぷり入った瓶ビールと空のグラスを持って、お世話になつて上級生の席まで自ら出向き、「失礼します。」と言つてお酌をさせていたたくと、上級生もこちらのグラスにもお酌してくださる。乾杯したら下級生は一気にこれを呑み、「どうもありがとうございまして。」と言う。「チアは一気飲みしなくて全然大丈夫。」でしたが、呑める者は顔色ひとつ変えずに呑んでおりましたね、誰とは言いませんが。

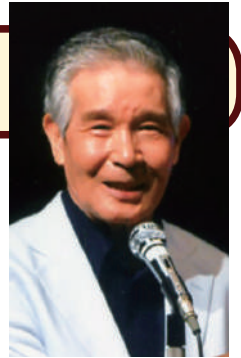
「同じ釜の飯を食う」とは本当によく言つたもので、今でも応援部の仲間と会うと一番花が咲くのはやはりどうして合宿の思い出である。

昨今では風邪の予防や薬害の解毒に日本酒や赤ワインが効くとの研究発表があるとのこと。みんなで思い出話に花を咲かせて、ますます積極的にお酒を摂取しようと考えている。

(平成8年商)

ふるさと
お国自慢

「郷里・香川」の二つの思い出話 小林 大輔



「郷里」には、長い間帰っていません。郷里の大先輩、菊池寛氏は、郷里ではあまりにも知られた逸材です。私の祖母が（勿論、今は亡くなっていますが）幼い頃、ご本人と交流があったのでしょうか。「菊池のクワンさん、菊池のクワンさん。」と呼んでいたのを思い出します。菊池寛氏は、文芸春秋社の創業時の社長で、作家として、また経営者として辣腕を振るい、親友だった芥川龍之介の名を取った「芥川賞」、そして大衆文学の「直木賞」を今に残した人です。

郷里香川県は、魚に恵まれた土地柄でした。私が今だに「魚好き」なのは、たぶん子供のころから親しんだ魚のせいでしょう。瀬戸内の海に恵まれ、子供の頃から魚屋さんの店頭には、どこでもピチピチした魚が並んでいました。「魚は生きていなければ魚じゃない。」私は、そう思って育ててきました。

さて、私は次の二つの思い出話を、克明に記憶することで、自分の前半の人生を左右されたのではないかと考えるのです。

最初の思い出話とは、私の大好きだった女の先生が、小学六年生だった私を呼んで「ねえ、小林くん。君は将来アナウンサーになれる素質があるわよ。アナウンサー目指して頑張りなさい。」そうおっしゃったのです。私のどこを見て、その先生はそう言ったのか、私にはわかりません。私はキョトンとして、その言葉をただ聞くばかりでした。

しかし、その後の私は、先生の言った言葉を固く信じて、「僕はアナウンサーになれる……」と、一途に邁進したものです。その先生の言った言葉が、呪文のように私の心に

去来し、中学・高校、そして早稲田大学では放送研究会に入り、毎日アナウンスの厳しい練習に明け暮れたものです。

もう一つの思い出話は、早稲田大学の受験の直前、私は当時住んでいた高松市から、あの金毘羅神宮まで、一人で歩けるか……。その体力はあるか……。そんな突拍子もない事を思い立ったのです。

何しろ、昨日まで高校の演劇部の活動が面白くて、ろくな受験勉強などしていなかったものですから、早稲田大学に入る事などは、私にとって夢のまた夢。

しかし金毘羅まで歩き通せるなら、早稲田入学など簡単だと自分で信じたのです。私は暗いうちから家を出、テクテクと金毘羅街道を、神社の石段目指して、一人で歩き続けたのです。神社のふもとに辿り着けたのはまだ序の口。さあ、金毘羅山特有のあの石段です。あなたもご存じでしょうが、金毘羅山は、この石段攻略が難題です。

結局、私が高松市の我が家に辿り着けた時には、日もとつぷりと暮れて、完全に夜になっていました。その距離、約30キロ。「よーし、この調子で勉強をするなら、早稲田も入学できるぞ……」自分の不勉強を棚に上げ、私は、早稲田大学も簡単と思い込んだのです。私の早稲田大学の合格は、金毘羅神宮のご利益あつての事かもしれません。

この二つの体験から、私はアナウンサーとしてフジテレビに入り、前半の私の人生を有意義なものとして過ごすことができました。（昭和40年文）

光が丘ローズガーデンコンサート

秋色も深まった10月31日（日）、光が丘四季の香公園で開かれたローズガーデンコンサートに早稲田大学交響楽団より編成された弦楽四重奏団が登場、なじみのある曲目を演奏して来場した皆さんから喝采を浴びました。

これは、練馬稲門会がこれまでニューイヤーコンサートの収益金の一部を「練馬みどりの葉っぱい基金」に寄付を続けてきたことから、今回同ローズガーデンの大幅改修に合わせたオータムフェスティバルにワセオケの出演を依頼されたことによるものです。

秋バラの香りにつつまれた園内に響いた美しい音色は、来園者にしばし特別なひとときを提供したようです。

ご寄付ありがとうございました

練馬稲門会では、新型コロナ感染拡大で困窮する学生に対する支援を目的とした早稲田大学の募金要請に応じ、会員の皆様にご寄付をお願いしたところ、9月末までに114名の方々から47万円の浄財が寄せられました。

これを過日、「WASEDA サポーターズ倶楽部（新型コロナウイルス学生支援）」に寄付し、大学当局から感謝の言葉を頂きました。

このほかに個人で直接大学に寄付した方もおられました。

皆様のご協力に改めて御礼申し上げます。

なお、この寄付内訳は来年初めに発行される早稲田学報添付の「寄付者芳名」に記載される予定です。

サークル活動でより楽しい練稲ライフを!!

2021年11月現在、17のサークルと3未来塾がそれぞれ活発な活動を行っています。

お好きなサークルを探して、交友の輪をさらに広げてください。

令和3年11月現在 (サークル推進チーム作成)

サークル	部長	卒年	連絡先	開催予定日
1 ゴルフ部会	栗原 英明	S40	090-4246-1124	毎月(日は未定、1、2、7、8月休会)
2 歴史ウォーキング部会	八巻 孝夫	S45	080-5082-0756	七福神巡り他、年6回程度(3月~5月、9月~11月) 夏冬休み
3 旅行部会	藤沢 礎	S49	090-4391-7665	年間3回程度
4 麻雀部会	喜々津和夫	S43	090-1841-4772	奇数月の最終金曜日、年2回早慶戦、年2回近隣会、年1回熱海泊
5 囲碁部会	田辺 攻	S43	090-4604-8297	毎月第3土曜日、合宿、オール早稲田囲碁大会、春・秋豊島対校戦
6 グルメ会	持ち回り		事務局 070-3526-4179	年2回程度
7 テニス部会(硬式)	武田 幸雄	S44	090-4434-3472	定例会(毎月第2水曜、第4水曜)、夏合宿(軽井沢)、杉並稲門会との交流戦
8 エッセイ同好会	照山 忠利	S45	080-1700-1050	偶数月(原則第3土曜日)
9 ワセダスポーツを楽しむ会	小島 忠夫	S41	090-4606-4552	箱根駅伝、野球早慶戦、早明ラグビー、早慶レガッタ
10 カラオケ部会	土屋 正孝	S45	090-1425-3664	毎月・第3月曜日PM4:00~7:00、ジュニア部会年1回程度(土日)
11 山歩き会	久保庭啓一	S43	03-5383-7575	毎月1回山歩き・第1木曜日定例会
12 写真クラブ	岡田 吉郎	S35	090-5777-9215	毎月1回
13 酒楽会	森 正治	S46	090-4361-6656	月末の最後の木曜日(年5回)
14 釣り愛好会	松浦 康夫	S48	090-5507-5100	例会年4回(4、6、10、11月頃)、オフ会=随時
15 料理を楽しむ会	仲山 典美	S40	080-4357-8665	2か月に1回
16 フォークソング愛好会	穂山 幹夫	S40	090-4832-7722	毎月第1火曜日例会(PM1:00~3:00)
17 落語を楽しむ会	土屋 正孝	S45	090-1425-3664	毎月1回例会(寄席鑑賞)
未来塾	講師	卒年	連絡先	開催予定日
1 未来塾講演会	テーマ毎		事務局 070-3526-4179	3か月に一度開催
2 PC相談室	山田興太郎 平田慎一郎	S41 S45	事務局 070-3526-4179	毎週木曜に開催
3 傑作時代・名作歴史小説を読む会	野原 茂樹	S51	事務局 070-3526-4179	3か月に一度開催

注1) イベント募集案内、活動状況報告はHP (<http://nerima.waseda-info.com/>)、メルマガ、サークル通信をご覧ください

2) 現在は新型コロナ対応で活動不定期となっているサークルもあるので具体的な活動日時は直接各サークル部長宛ご照会下さい。

6/17 矢沢西二さん(S30文)91歳 7/24 関 博之さん(S41理工)78歳
お悔やみ申し上げます 8/23 川島英雄さん(S44教育)74歳 9/13 相澤 譲さん(S36法)84歳
10/8 増田次郎さん(S26理工)93歳

<http://nerima.waseda-info.com/>

編集・発行: 広報チーム

照山 忠利 鈴木 奎三郎 岡田 吉郎 橋口 奈保 富塚 昇

発行所: 〒176-0014 練馬区豊玉南3-24-18 国産自動車交通本社ビル 練馬稲門会事務局 TEL.070(3526)4179 FAX.03(4243)2759

いしざき内科

富士街道沿い 石神井庁舎南
石神井町3-30-20 TEL.(03)6913-3925

胃内視鏡検査
大腸カプセル内視鏡検査
超音波(腹部・甲状腺その他)
(賛助会員: 石崎 淳朗)